

祇園小学校 校長だより（第72号） 令和2年度第13号 令和2年10月1日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## 前期から後期への区切りと子どもの成長

今年度は、10月9日（金）が前期の終業式です。終業式には、前期に学校へ通ったおおよそ100日間の学習や生活の様子を通知表でお伝えします。前期の成果と課題を10月13（火）から始まる後期に活かしてほしいと思います。

生き物は、季節や気温、日照時間などを区切りとしています。花の開花や昆虫の羽化、動物の冬眠などがありますが、人間も季節や月日を区切りとしながら生活しています。子どもたちは、学年・学期を区切りとして成長をしています。前期の終わりには通知表の良し悪しだけでなく、日々頑張り、成長を遂げたお子さんの姿も認めてあげてください。

## 読解力の大切さ

『AI vs.教科書が読めない子どもたち』（2018年、東洋経済新報社発行）という本があります。著者の新井紀子さんは、国立情報学研究所教授で2011年に「ロボットは東大に入れるか」と名付けた人口知能プロジェクトを始めた数学者です。この本によると「東ロボくん」と名付けられた人口知能は、東大合格レベルには届かなかったものの、MARCH（明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大）レベルの有名私大には合格できる偏差値に達したそうです。また、この著者は、AIが人間の能力を上回る「シンギュラリティ」（技術的特異点）は来ないと断言しています。AIが複雑になり優れたディープラーニングのソフトウェアが搭載されても、所詮コンピュータに過ぎない。コンピュータは計算機であり、人間の脳が意識・無意識を問わず認識していることすべてを数式に置き換えることはできないと数学者の立場から述べておられます。

しかし、ここで安心してはいけません。AIが最も苦手とする「読解力」（教科書読解力）を著者たちが調査した結果、教科書の内容を正しく読めていない日本の中高生が多くいたそうです。AIに仕事を奪われないためにも、AIが苦手とする「読解力」を身に付けていくことが必要です。

長崎県教育委員会も「読解力」育成に力を入れています。その中から、宿題や家庭学習、テストやノートを見る時などにお子さんへアドバイスしてほしいことの一例を記載します。  
①主語と述語の関係を正確にとらえる。 ②「それ」「これ」などが表す言葉や内容を正確に読み取る。 ③絵や図、表、グラフなどを正しく読み取り、問題文のどこに対応するのかを理解する。 ④すでに習った内容と関係付けて問題を解く。（教科書やノート、テストなどを取っておけば便利です。）

## 祇園歴史の旅（その72）「12周年の祇園小とその時代」

祇園小学校沿革史によると、平成25年9月8日中庭にタイヤ・滑り台・ベンチ設置、平成26年2月27日中庭にシーソー設置、2月県学校保健会よい歯の学校努力校受賞とあります。PTAと地域の方々により中庭に遊具が設置され、児童の遊びの場が広がった年でした。

また、インターネット記事によると、当時の主な出来事は次のとおりです。平成25年7月21日参院選自民大勝ねじれ解消、9月7日2020年五輪・パラリンピック東京に決定、平成26年2月6日ロシアソチ冬期五輪開幕、3月7日同パラリンピック開幕。

次回は、「13周年の祇園小とその時代」と題して、13周年の祇園小学校の出来事や平成26年4月～27年3月までの日本内外の主な出来事をご紹介します…。